

コロラドスタディツアー-2019

(8月1日~8月11日)

実施報告書



(公財)出羽庄内国際交流財団

目 次

◆ はじめに	P. 1
◆ スタディツアー コロラド州基本情報	P. 2
◆ スタディツアー 日程表	P. 3
◆ 日記	P. 4
◆ 参加者によるツアー報告書	P. 18
◇ 佐藤 瑞希 (鶴岡第二中学校 3 年)	P. 17
◇ 星野 亜弥 (鶴岡中央高等学校 2 年)	P. 18
◇ 小林 千乃 (鶴岡工業高等学校 2 年)	P. 20
◇ 岡部 虎之介 (鶴岡南高等学校 1 年)	P. 22
◇ 小川 遼太郎 (鶴岡南高等学校 1 年)	P. 23

はじめに

(公財) 出羽庄内国際交流財団では、2008 年より「コロラドスタディーツアー」を実施しており、山形県の姉妹州であるアメリカ・コロラド州の人たちとの交流を通して国際的感覚を体験的に身につけること、英語実践力を向上させることなどを目的として行っています。《異文化理解プログラム※》は今年で 12 回目を迎え、中学生 1 名、高校生 4 名の、合わせて 5 名が参加しました。8 月 1 日から 11 日間、実に様々な体験をしてきました。 ※昨年度は《中高生と社会人のためのコロラドスタディーツアー》として実施

ツアー中は、現地の一般家庭にホームステイをしながら、家族の一員としてアメリカの日常生活を体験させていただきました。他にも、英語のみで行われる英語レッスンを受けたり、現地の高校を訪れたり、日系人会ピクニックで芋煮をふるまったりなど、コロラドの人たちと直接交流する機会を多く持つことができました。生の英語に触れ、参加者の皆さんは大きな刺激を受けたようです。また、今年は天候に恵まれ、ハイキングやラフティング、乗馬など、雄大なコロラドの自然の中でのアクティビティを思い切り体験することもできました。

ツアー当初は緊張の為か、こちらが心配するほど静かだった参加者の皆さんでしたが、現地の方々の温かい受け入れにより、日を追うごとに積極性を持って各プログラムに取り組むことができました。ホストファミリーとどんな話をしたのか、プログラムでどんな気づきがあったのかなど、日々の会話の中に、皆さんの成長を感じることができました。参加者の皆さんは、自身の成長を帰国後に感じたようです。

コロラドでこのような素晴らしい体験ができたのは、プログラムの全体調整、現地の同行、ホストファミリーの調整もしてくださった村治孝浩さんをはじめ、現地でこのプログラムの支援をしてくださった皆さんのおかげです。心から感謝申し上げます。

この報告書には、参加者の皆さんがコロラドで日々感じたこと、経験したことなどが、それぞれの視点で綴られています。今後のコロラドツアーへの参加を検討されている方にとってもこの報告書が参考となり、鶴岡とコロラドとの交流が続いていくことを願っています。

(公財) 出羽庄内国際交流財団
今野 志都子



アメリカ合衆国 コロラド州



コロラド州 基本情報

- ・面積 : 26 万 9837 km² (日本の 4 分の 3)
- ・人口 : 約 569 万 5,564 人 (2018 年)
- ・州都 : デンバー市 (標高 1,609m)
コロラド州は全領域が標高 1,000m 以上ある全米唯一の州。
- ・気候 : 亜乾燥気候、ステップ気候、湿潤大陸性気候
山岳、高原、砂漠と様々な地形があり、気候も複雑である。

・日本との関係 :

1886 年に松平忠厚が日本人として初めてコロラドの地を踏んで以来、日本人移民がデンバーにも入るようになり、炭鉱夫、鉄道工夫として出稼ぎにきた日本人がかなり居住していた。第二次世界大戦当時、西海岸に住む日系人 12 万人が内陸部に強制移住させられたが、当時のコロラド州知事ラルフ・カー氏は、迫害された日系人を温かく迎え入れた。現在山形県とコロラド州は姉妹県となっている。また、州内 9 都市が日本と姉妹都市になっており、活発な交流活動を行っている。

コロラド州在住日系人 約 19,000 人
在留邦人 約 4,186 人 (2014 年 10 月)

コロラドスタディツアー 日程表

期間：2019 年 8 月 1 日～8 月 11 日 11 日間

月日	時間	訪問先など	備考
8/1	8 : 35	庄内空港→羽田空港	全日空 396 便
	17 : 00	成田空港出発	全日空 172 便
	13 : 50	サンノゼ空港で米国内乗り継ぎ	ユナイテッド航空 2026 便
	17 : 00	デンバー国際空港に到着 各ホストファミリー宅へ	
8/2	終日	イザベル湖へハイキング	
8/3	終日	ホストファミリーデー	
8/4	午前	日系人会ピクニックに参加	
	午後	ホストファミリーデー	
8/5	午前	ラフティング(アイダホスプリングス)	
	午後	英語レッスン	
8/6	午前	州会議事堂見学	
	午後	アウトレットモールでショッピング 英語レッスン	
8/7	午前	デンバー市内公立高校 (DCIS) 見学	
	午後	レッドロックス (野外劇場) 見学	
		チェリークリークでショッピング	
8/8	午前	英語レッスン	
	午後	デンバー自然科学博物館見学	
	夜	コロラド・ユース・イン・アクションのメンバーと交流会	
8/9	午前	乗馬体験 (エステスパーク)	
	午後	ロッキーマウンテン国立公園	
8/10	13 : 30	デンバー国際空港 出発	ユナイテッド航空 143 便
8/11	16 : 20	成田空港到着	
	20 : 15	羽田空港→庄内空港	全日空 399 便

コロラドスタディツアー

日記

8月 1日 (1日目)

担当：小林 千乃

庄内空港に集合。これからアメリカ・コロラドに向かいます。ANA8:45 発羽田空港行きに乗りました。成田空港にリムジンバスで移動して、昼食を取りました。そして搭乗手続きをするために、長い列に並びました。カウンターから満満員だと言われました。乗ってみると本当に満満員。空いている席は無かったです。17:35 分離陸。楽しみな気持ちと不安な気持ちで気持ち悪かったです。



これからサンノゼ空港に向かいます。とても長いフライトを映画を見て過ごしました。初めての機内食も食べました。割とおしかったです。サンノゼ空港で初めての税関。最初の一言が「I don't understand.」でした(笑)。気さくな方だったので、持っている書類を全部出したら入国させてもらえました。観光で来たこと、コロラドに行くこと、親の同意書を出せばわかってもらえます(笑)。荷物を受け取って、次の搭乗手続き。日本人のスタッフが案内してくれました。時間が短くて、皆ピリピリしていて怖かったです。遅延があったので、次の飛行機も遅れて出発しました。空港で水を買いました。\$4 もしました。高い。映画が見れない飛行機だったので、寝ました。アメリカの飛行機は、ペットと一緒に乗れるみたいです。無事に着陸。すごく長旅だった気がしました。空港で、たかさんとれおくんが待っていました。たかさんの顔はすぐにわかりました(笑)。

これからホストファミリーに会います。とても緊張していました。私は 2 つの家に行くことになっています。最初は女子 3 人一緒です。すごく嬉しかった！『Welcome to COLORADO』って歓迎してくれました！3 人の子供達とシンシアとマット、犬2匹が迎えてくれました。すぐに夕飯になりました。ミートボールとトマトソースのスパゲッティ、サラダを食べました。ミートボールがジューシーですごくおいしかったです！ホストファミリーと家族の話などをしました。楽しかったです。デザートにナッツのパイとバニラアイスを食べました。甘くて流石アメリカだと思いました。日本から持ってきたお土産も渡したら喜んでもらえました！よかったです！疲れたけど楽しい1日目が終わりました。



8月 2日 (2日目)

担当：佐藤 瑞希

今日はイザベル湖にハイキングに行きました。標高がとても高いため酸素が薄く、すぐに息があがってしまいました。急な登り坂や下り坂があり大変でしたが、登り終わった瞬間は今までにないくらいの達成感を感じることができ、壮大な景色は今でも頭から離れません。

下りの道中では、コロラドの州花である「コロンバイン」にも出会うことができました。



車の中で教わった「small talk」を使い、すれ違う方々とコミュニケーションを図ることも出来ました。

コロラドに来て最初のプログラムがとても充実したものになりました。



8月 3日（3日目）

担当：星野 亜弥

今日は、シンシア一家と一緒に屋台に買い物に行きました。沢山の店が並んでいました。カラフルなポップコーンやメキシコ料理など、日本では珍しいものを食べました。不思議な味がしましたが、美味しかったです。お昼ご飯はハンバーガーを食べました。小さいサイズを頼んだはずなのに、ボリュームがあつて1個でとてもお腹がいっぱいになりました。味が濃いのも自分好みで、アメリカに行ったら本場のハンバーガーを食べたいと思っていたので、満足しました。



夜ご飯は、瑞希、千乃と一緒に、おにぎりとお天ぷらと味噌汁を作りました。シンシアが日本の食材を売っているスーパーマーケットに連れて行ってくれました。日本の食材以外にも、中国、韓国の食材があり、アメリカにいるような気がしなかったです。アジアにいるような感覚になりました。家に帰って、ご飯を作りました。米を炊こうとしたら、なんと家に炊飯器があり、びっくりしました。炊飯器があると本当に便利だと改めて思いました。3人だったので、わりと手際よくご飯を作る事ができました。実際に食べてもらいました。みんながとても喜んでいたので、嬉しかったです。作って良かったと思いました。



8月 4日（4日目）

担当：岡部 虎之介

今日のメインイベントは、日系人会が主催するピクニックでした。アメリカに来てから、初めてタカさん以外の現地に住んでいる日本人を見て、不思議な気分になりました。この日は、内陸風と庄内風の芋煮を作ることになり、内陸風芋煮は醤油がベースで、庄内風芋煮は味噌がベースでした。庄内風芋煮はいつも食べている味な



ので、アメリカにいたときに久しぶりに味噌の味を感じ、とても嬉しく思ったのを記憶しています。また、アメリカの方々にも芋煮は大人気で、味噌や醤油の味がアメリカでも好まれているのを感じ、それと同時に、日本食が海外から人気を集めているのを感じました。

また、この日は、花笠踊りもあり、アメリカに行く前に練習をしていったので、多分大丈夫だろう、と思いながら披露の準備に移っていたら、人が思った以上に多くて、少し緊張してしまいました。でも、みんなで黄色の法被を着て踊る花笠踊りは楽しかったです。



8月 5日 (5日目)

担当：小川 遼太郎

朝、早くにホストファミリーの犬であるレミーの元気すぎる足音に目覚めさせられ、ラフティングの準備を始めました。朝食はドーナッツと昨日スーパーでクリスティンに買ってもらった味噌汁で済ませました。結構おいしかったですが、ジョンは僕が味噌汁を飲むのを終始まばたきせずに、黙って見ていました(笑)。

車の中でタカさんにバッファローの話を聞きました。植民地支配の残酷さを深く感じました。



ラフティングの場所に着くと全員マリンスーツのような服をきて、数分間説明を聞きました。そして、いよいよ出発。最初の方は、流れも緩やかでインストラクターと一緒にオールをこぐ練習をしました。段々流れが速くなってきて、男子陣3人で絶叫しながら後ろから進撃してくるマッチョ集団のボートと張り合って最高の時間を過ごしました。



午後は英語レッスンがありました。シェリー先生と一緒にあいさつや簡単な質問等を学びました。自分が知らなかった単語やよく理解していなかった発音をたくさん吸収することができました。

朝ごはんは、パンとヨーグルト、ティーを食べました。それから、自分でランチを作れと言われたので、サンドイッチとリンゴにしました。昨日の夜に、スーパーで材料は買ってもらいました。集合場所である隣のたかさんの家に自分で来いと言われたので、リンと犬のカービーと向かいしました。

州会議事堂に行きました。ローズ・オニックスという大理石が、柱に使われています。コロラドでしか取れないそうです。今はもうローズ・オニックスは取れないので、ここが燃えたらもうなくなるそうです。燃えなきやいいな。この、柱の木も全部コロラド産のもの。



差別の話もされました。最初に見た絵が、私が好きな奥行きのない絵だったので、楽しかったです。絵が動いて見えました。でも、その絵にも残酷なことが描かれています。昔アメリカであった、『サンドクリークの虐殺』の話もされました。でも、経済が発展して幸せそうな絵もありました。

階段に、大砲玉をモチーフにした手すりがありました。当時使われていた大砲玉も手すりについていました。

ステンドグラスには、コロラド開拓時代に活躍した人が描かれていました。今は使われていない裁判所も見ました。日本の裁判所よりも椅子がたくさんありました。議会とかも見ましたが、説明が難しく覚えていません。たかさんから分厚い教科書を渡された気分でした。



それからアウトレットモールに買い物に行きました。ほとんどの店がセールをしていたので、安く買うことができました。両手一杯に買い物をしました。



最後は英語のレッスンに行きました。たかさんから言われたとおりに、先生の質問には私から答えました。でも、先生がなにを言ってるのかわからなくてパニックになり、同じ質問をされていると思って同じ返答をしていたら、たかさんに怒られました。違う質問をされているのに、同じ答えを言うのはとても失礼だと言われました。質問を理解していないのに答えるのは失礼だって。理解できてると思っていたので、もっとパニックになりました。英語のスキルをあげないといけないと思いました。日本に帰ったら猛特訓すると誓いました。

ホームステイ先に帰ってきました。休憩をとったら、夕飯になりました。鶏肉ととうもろこし、パイナップル、スイカでした。とてもおいしかったです。鶏肉が柔らかい！ぱさぱさしてない！すごくおいしい夕飯でした。デザートはアイスクリームを頂きました。しずこさんも一緒に、色々な話をしました。ジェフの足に入っているタトゥーのことを聞きました。「息子が亡くなった。だからタトゥーを彫った。でも、後悔はしていない。自分達ができることをする。」と言われました。もし、自分の身にこのようなことが起きたら、私はできるだろうかと思いました。





今日は、スクール見学とレッドロックスに行きました。DCIS という、中高一貫校の学校に行きました。日本語やスペイン語などの様々な言語を学ぶことができ、とてもグローバルだと思いました。学校の中も広くて、日本の学校とは違い体育館にステージがないことにとてもびっくりしました。実際に DCIS の生徒の人と話しました。好きな日本の食べ物や、アメリカのアーティストについてなど、簡単な質問をしたりして、コミュニケーションを取ることができました。日本とアメリカの学校の違いを見て学ぶことができ、良い体験になったと思います。

タカさんがレッドロックスに行くときに、車の中でコロラドの意味について教えてくれて、300 年前に既にスペイン人が探検に入ってきて、コロラドはスペイン語で「赤い土」という意味があると言っていました。私は初めてレッドロックスを見ました。レッドロックスの一番上の層は、6億年前のロッキー山脈がまだ海に沈んでいた頃のもので、上から下までナイアガラの滝と同じ高さがあります。岩の間にくりぬかれている野外劇場は、約 8000 人を収容することができる場所で、最初に演奏したのは、オペラだそうです。レッドロックスは観光地ではあるが、コロラドの



人はランニングや筋トレ、運動している人が多く見られました。面白いと思ったのは、犬を担いでスクワットをしている人がいてびっくりしました。

今日は午前には英語のレッスン、午後から自然科学博物館の見学がありました。

英語のレッスン最終日・・・初日の緊張感や不安はどこへ行ったのかと思うくらい、楽しくレッスンを受けることが出来ました。日常会話を中心とし、よく使用するフレーズや挨拶などとても身になることばかりでした。

Sherry 先生、「Thank you for teaching us English!」



午後からの自然科学博物館では、恐竜や哺乳類などの古代生物の化石やロッキー山脈周辺ならではの自然に関する展示が充実していました。最上階の4階には東側に連なる美しいロッキー山脈の山々を見晴らせる絶景展望スポットがあり、そこから見る景色はとても雄大でした。



その後、ユースインアクションとの交流がありました。そこではいろいろなゲームをして遊んだり、2人1組になってお互いを紹介しあったりしました。たくさんの人とコミュニケーションをとることができ、自分の成長に繋がった

と思いました。アメリカの方は「人見知り」という言葉がないような気がしました。誰にでも笑顔で接している姿は輝いて見えました。日本人はそういう所に消極的になってしまう傾向があるのだと感じ、改善していくべきだと思いました。短い時間でしたが、とても充実した楽しい時間を過ごすことができました。もっと長く交流したかったです。いろいろな人と仲良くなれたので良かったです。

今日は、乗馬体験とロッキーマウンテン国立公園に行く日でした。いつもより朝の集合時間が早く、車の移動時間も長かったのですが、車内で同じツアーの人たちと喋ったり、タカさんから出された問題を考えたり、アメリカに関することをたくさん話していると、あっという間に着いた気がしました。着いて、車から降りてみると、天気がすごくよく、綺麗な青空でした。馬に乗って、山を上り下りしたのですが、とても景色が綺麗でした。特に、山頂からの町の景色が綺麗でした。また、道中、下り坂で馬が走ったりするなどというイベントもありつつ、とても楽しかったです。



次にロッキーマウンテン国立公園に行きました。ビジターセンターがあるところは、森林限界で木がなく、標高も高かったため風が強く、とても寒かったです。また、そこにはお土産屋があり、シャツやコップやお菓子が売られていて、売店もあって、とても良かったです。

今日は、思い出に残る日でした。



8月 10日 (10日目)

担当：小川 遼太郎

この日は朝9時に起きました。いつものドーナツの箱の上にクリスティンからの手紙がのっていてとてもうれしかったです。朝食を済ませたあと、ジョンのマウンテンバイクの調整の手伝いをしました。自分もここに残って一緒に楽しみたいと思いました。その後、ジョンがグーグルマップで僕の家を見たいと言ったので、自分の家と小・中学校、高校、鶴岡公園を見せました。鶴岡公園の桜がきれいだといったら、「You have to send me a lot of cherry pictures in this park!!」と言われたので、「Sure!!」と答えました。



タカさんと飛行場でさよならをしました。ずっと手をふりつづけました。ちょっと寂しかったです。飛行機の中ではアメリカで過ごした日々が刺激的で、とても寝ることなどできませんでした。ホストファミリー、タカさん、レオさんありがとう！！



8月 11 (11日目)

担当：佐藤 瑞希

16時20分成田国際空港へ到着!

ただいま!日本!

ホストファミリーとの別れを寂しく思う気持ちと、家族に久しぶりに会える嬉しい気持ちが入り混じっていました。

いざ庄内へ・・・

「おいしい庄内空港」へ到着し、家族の顔を見てホッとしました。

長かったようで短かった11日間。たくさんの出会いと、経験、多くの学びを得ることが出来ました。



コロラドスタディツアー 報告書

コロラドスタディツアー報告書

鶴岡第二中学校 3年 佐藤 瑞希

コロラドスタディツアーへ参加し様々な体験を通し、多くのことを学び、感じる事が出来ました。参加前は不安や心配がありましたが、最高の仲間やホストファミリーに恵まれ楽しく充実した11日間を過ごすことが出来ました。

コロラド到着時には、日本とは違う壮大な自然に囲まれた風景に驚き、感動しました。ホストファミリーと初めて会い、自宅に到着した際には「Welcome To Colorado」と玄関前に大きく描かれていて、緊張がほぐれました。私のホストファミリーには3人の子供たちが居てバドミントンやバスケットボールをして遊びました。みんな優しく、気軽に声をかけてくれたおかげで、その日のうちに打ち解けることが出来ました。



このツアーの中で特に心に残っていることは、イザベル湖トレッキングです。標高が高いため息が上がってしまいましたが、アメリカの自然は本当に美しく、途中景色に見とれてしまうことがたくさんありました。湖や大自然に囲まれた中での昼食は格別なものでした。

このツアーを通しての一番の収穫は、自分の視野が広がったことです。日本とは全く違う文化や歴史に触れ、海外が自分にとって身近なものに感じられるようになりました。ホストファミリーはもちろん、孝さん、国際村の皆さんには本当にお世話になりました。今回のツアーでの様々な経験を今後に活かしていきたいと思います。この夏一番の忘れられない思い出を作ることが出来ました。本当にありがとうございました。

コロラドスタディツアー報告書

鶴岡中央高等学校 2年 星野 亜弥

私がこのツアーに参加しようと思ったのは、海外にずっと行ってみたいと思っていたし、他の国の人と関わってみたいと思っていたからです。でも、最初にメンバーの顔合わせがあったとき、案の定知っている人は誰も居なかったもので、1週間一緒に行動できるのだろうか、少し不安でした。でも、みんな個性豊かで楽しかったです。

このプログラムで印象に残った体験は、コロラドに来て2日目に登ったイザベル湖トレッキングです。コロラドは標高が高いので、山を登るのはとてもきつかったです。長い時間登っていたので疲れたのですが、山を登り終わって周りの景色を見渡した時、あまりに綺麗で感動してしまいました。日本にはこんな景色が無いので、私にとってとても新鮮でした。テレビの映像で見るぐらい、神秘的で本当に綺麗でした。イザベル湖に来て、良かったと思いました。



人生で初めて乗馬を体験しました。初めて近くで馬を見ました。近くで見ると迫力があると思いました。足もしっかりしているなと思いました。坂を登ったり、下ったり、揺れるので落ちるんじゃないかと思って、とても怖かったです。私の馬はいろんな所に行く馬でした。馬が動かなくなったらお腹を蹴ったり、草を食べさせてはダメなので、その時はたづなを引っ張るようにと言われました。それを聞いて、馬がかわいそうだと思ってしまいました。でも、ルート通りに歩く馬が、「凄いなあ」と思いました。乗馬を体験することはできない事なので、とても貴重な体験ができ、とても楽しかったです。



また、ホストファミリーとの時間もとても思い出になりました。初めて行ったとき、「Welcome To Colorado」と、チョークで地面に書いてあってとても嬉しかったです。正直、英語が伝わるか心配でした。でも、意外と話すことが出来たので、良かったです。シンシア一家とハンバーガーを食べに行ったり、ご飯を食べた後にバドミントンをしたりしました。シンシアとマツが上手でびっくりしました！時間が過ぎていくのが、とても早く感じました。

サムの散歩に行ったとき、マツに日本語を教えました。月や空や花を教えました。散歩をしていたとき、リスがいたので、英語でなんというのか教えてもらいました。勉強になりました。ドライブしたとき、私が Justin Bieber が好きと言ったら曲を流して歌ってくれました。嬉しかったです。また、毎日のご飯がとても美味しかったです。どれも美味しかったけれど、シンシアが作ってくれる中華料理がとても美味しかったです。最終日の夜も作ってもらいました！



コロラドスタディーツアーを通してまた海外に行きたいという気持ちが高まりました。英語が完璧でなくても、挑戦することが大切だということを学びました。またコロラドに行きたいので、そのときはもっと英語が話せるようになっていきたいので、勉強を頑張りたいです。1 週間はとても短かったけど、学ぶことが多く、とても充実した日々でした。タカさん、レオさん、ホストファミリーの皆さん、ジョアンさん、国際村の皆さん、ありがとうございました。



コロラドスタディツアー報告書

鶴岡工業高等学校 2年 小林 千乃

私は海外に憧れがあり、留学経験のある友達から行った方がいいと言われたので今回のツアーに参加しました。初めての海外だったので、とても緊張しました。皆、緊張していました。アメリカに着いてからは、もう緊張はしていられないなと思いました。

私はステイ先が二軒ありました。二軒ともすごく良い家でした。だから、とても楽しかったです。言葉も考えも食べ物も違う人達との生活は大変だと思っていましたが、とても良い経験になりました。言葉は確かに通じませんでした。でも、理解しようと真剣に私の言葉に耳を傾けてくれました。千乃の英語が大好きだと言ってもらえました。ご飯はとても美味しかったです。太る前に日本に帰ってこられてよかったです。



コロラドについて最初の体験が、イザベル湖トレッキングでした。初日から高山病になりました。私だけゆっくり登って下りました。ここからアメリカの文化は違うと思いました。日本だったら皆と一緒に行動しなければいけないし、自分が遅れたら皆に迷惑がかかるという考えがあります。アメリカは、自分のペースでいいそうです。ゆっくり歩いていたので、コロンバインというコロラドの花を見つけることができました。たかさんに、千乃がゆっくり歩いたお陰だと言われて、照れくさかったです。

コロラドの学生ともふれ合う機会がありました。私は緊張してあまり話せませんでしたが、皆、とても優しくて驚きました。人見知りという言葉がここにはなさそうだなと思いました。ユースインアクションが、私の中では一番楽しかったです。いきなりリズムゲームが始まりました(笑)。とても楽しかったです！ハイテンションになりました。まだ帰りたくないって思い

ました。かえるの歌(?)のリズムゲームを皆でしました。負けた人もとても楽しそうでした。ペアになった人を紹介することもしました。モーリーちゃんとペアになりました。日本語がとても上手だったので、英語を教えてもらいながら話しました。ここではリーダー的な存在でした。はないちもんめもしました。



初めて、自分の意見を言いました。誰をチームに入れるのかを決める時に、自分の意見を言えて良かったです。皆楽しそうに笑っていました。だから私も自分の意見を伝えることができたのだと思います。



ホストファミリーとの会話もとてもたのしかったです。「あなたはアメリカに来て、何を学びましたか？」と聞かれました。「皆が、ポジティブなことを口にします。ネガティブなことは言いません」と答えました。これは本当のことで、挨拶をしっかりとるし、相手の良いところを見つけることがとても上手かったです。私には中々できなかったです。でも、

挨拶だけはしっかりしようと思って、笑顔で挨拶することを大切にしました。そしたら、ホストファミリーや現地の人も打ち解けることができました。もっと早くしてればよかったと思いました。帰る時はとても寂しかったです。でも、また帰ってこようという気持ちが強かったです。だから、英語をもっと勉強しようと思いました。

今回のツアーは私の中では、すごく良い体験になりました。こんなに内容の濃い11日間はもう体験できないと思います。これからの生活にも今回のツアーで学んだ事をこれからの生活にも生かしていきたいです。

コロラドスタディツアー報告書

鶴岡南高等学校 1年 岡部 虎之介

私が、このコロラドスタディツアーで夏休み中11日間アメリカに行ってきた、感じたことは、大きく2つあります。

1つ目は、「文化の違い」です。これは多文化が当たり前のようにされているアメリカに行ったからこそ感じたものであると思います。具体的には、初対面の人に対する接し方や、店に行った時の店員の話し方など、コミュニケーションに関することです。アメリカの人は、初対面の人にも、「職業は?」「好きなことは?」「好きなものは?」・・・等々、相手に話しかけ、相手のことをより知ろうとすることで、仲を深めようとします。日本人にありがちな、初対面の人との会話が挨拶だけで終わってしまう、ということがアメリカではないのです。また、ホストファミリーもとても良くしてくれて、「わからないことがあったら、聞いてね」や、ホストファミリーデーには、「どこに行きたい?」と聞いてくれたり、「何が食べたい?」と晩御飯の時には聞かれました。おかげで、気軽に話せたり、アメリカについていろんなことが知れたり、感謝してもしきれないほどです。



2つ目は、「暮らし」です。アメリカのものは大きい、と私も思っていたましたが、予想を上回る大きさでした。服や食べ物等々、見るもの全てが大きかったです。

今回、アメリカに行って学んだこともあれば、現地に行き肌で感じたことも多くありました。世界は広く、いろんな考え方を持っている人がいる、ということを改めて認識することができました。また、「旅行」として楽しむこともできたし、「勉強」という意味でも楽しむことができました。

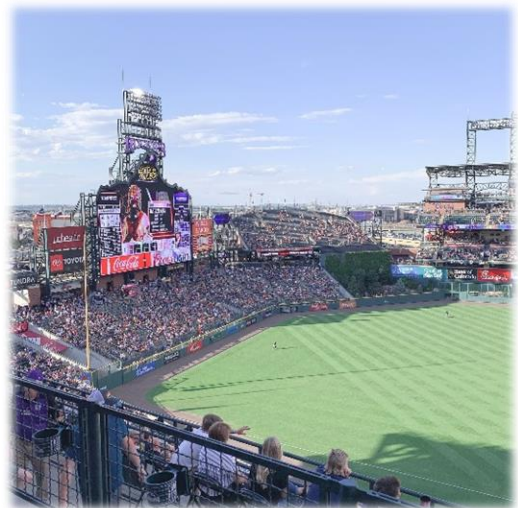
コロラドスタディツアー報告書

鶴岡南高等学校 1年 小川 遼太郎

成人になる前に一度でもいいから海外にいった世界の大きさを感じてみたいと思い、このツアーに参加しました。英語はそこそこしか話せませんし、アメリカについても文化や歴史、暮らし方、経済的なことも何も知りませんでした。しかし、あまり不安や緊張はありませんでした。自分が今から見るところには何があるんだろうという好奇心が、この11日間を良い思い出にしたんだろうと今では思います。

アメリカは日差しが強く、まったく湿気がありませんでした。それどころか唇や腕の皮膚が乾燥し、ヒリヒリしました。日本とは違い、晴れる時は雲がなく、文字通り「青空」なのが、アメリカについてからの第一印象でした。標高が高いらしく、高山病にかかることがあるそうですが、まず11日間元気に過ごすことができて良かったです。また時差ボケも完全とっていいほどになく、いつでもすぐ寝れるこの技に初めて感謝しました。アメリカで深く感じたことはなんといっても「全てが大きいこと」です。このフレーズ何度も聞いたよと僕も最初は思っていました。でも実際行ってみると本当に大きいんです！人の身長、車、家、庭、道路、建物、視界に入るものがといっても過言ではありません。日本に戻って来た時、日本はなんて小さいんだろうと心の底から思いました。そして発音です。今まで意識して練習してきませんでしたが、アメリカにいった、それを痛いほど実感しました。同じ言葉でもアクセントが間違っているだけで向こうの人は聞きとれないのです。これからの英語の勉強で気をつけていきたいと思います。

思い出に残っているのはホストファミリーと野球観戦に行ったこと、プレゼントをもらったことです。野球観戦は日本でも行ったことがなかったので、初めてがアメリカという他の人には経験できない気分を味わうことができました。プレゼントは本当にうれしかったです。なぜもらったかは理由が痛すぎるので言えませんがイヤホンをもらいました。ありがとう！





僕にはアメリカで過ごした11日間が一生忘れられない大切な思い出です。高校を卒業したら自分でお金をためて、ホストファミリーの家とタカさんの家へ戻りたいと思います。それまでに英語を頑張って、もっと沢山のことを話せるようになりたいと思います。

最後になりますが、ホストファミリーの皆さん、ツアーを支えて下さった皆さん、タカさん、本当にありがとうございました。



(公財)出羽庄内国際交流財団